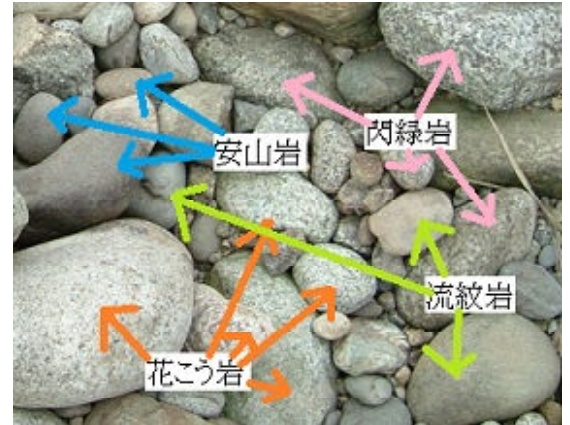


熊野川の特徴

熊野川は、有沢橋上流側で神通川と合流する神通川の支流ですが、井田川とともに、支流の中では比較的広い河川敷をもつ川です。この熊野川で「流れる水のはたらき」に必要な観察を企画した場合、中流の河川の様子を観察できる候補地としては、熊野橋ー興南大橋付近や小黑橋、文華橋付近などが候補地になりますが、この流域の特徴として、河川敷に雑草が生い茂りやすいことがあげられます。これは、上流に熊野川ダムができてから、水量の極端な変化がなくなり、礫が移動しにくくなったためだと考えられます。結果的に礫と礫の間に泥がたまりやすく、そこへ雑草が根を張り、泥が流されにくくなってしまいます。そのため、河川敷へ降りて観察しやすい場所が限られてきます。その中で観察しやすい場所を1箇所選ぶとすると、支流の黒川が熊野川に合流する福沢地内にある黒川橋脇がよいかと思います。ただし、あまり大きな川原ではないので、大規模校では神通川や常願寺川で観察地を選んだ方がよいでしょう。



小黑橋付近の岩石の種類

上流（黒川上流小坂地内：6月ごろなら、水生動物の観察にも適している）



中流（文華橋付近：川の屈曲が観察でき、礫の様子もわかりやすいが、季節によっては雑草が観察のさまたげになる）



中流（熊野橋付近：河川敷へ降りやすく、活動しやすい場所ですが、季節によっては雑草が邪魔になって観察しにくいことがあるので、下見をする必要がある）



黒瀬大橋からみた熊野川（もうすぐ神通川と合流）

